

## 3

## まちづくりプロジェクト

まちづくりの目標を実現するために、このプランでは、取り組むべき内容をまちづくりプロジェクトの形で取りまとめました。それにより、まちづくりのテーマの相互の関連性を明らかにし、かかわる主体が取り組みやすいようにしました。

## (1) 保土小跡地まちづくり拠点プロジェクト

平成12年春に移転し、跡地利用が課題となる保土ヶ谷小学校は、この地区のほぼ中心に位置します。この好立地を生かして、地区のまちづくりの核となる跡地利用を考えます。

住民と行政のパートナーシップで跡地利用プランづくりを進めます。

### ① まちづくりの拠点

保土ヶ谷小学校は、平成12年4月に移転しました。跡地はこの地区のほぼ中心という好立地にあります。

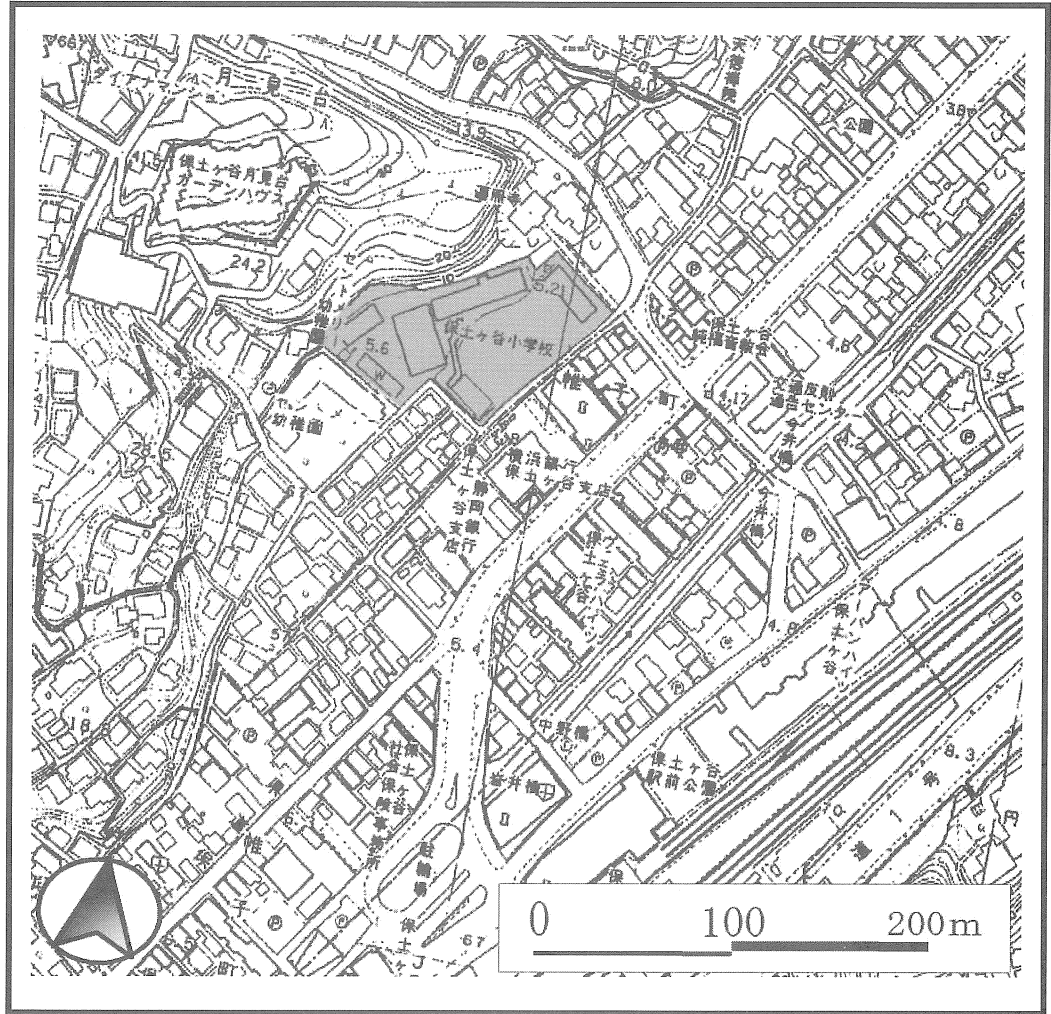
住民懇談会では跡地利用の機能として、高齢者福祉施設、防災施設、文化施設、宿場資料館、まちづくりサロン、公園・広場などさまざまな活用案が話題として出ています。跡地が地区の課題解決に寄与するとともに、まちづくりの核となるような利用プランづくりを進めます。

### ② 住民参加型のまちづくり

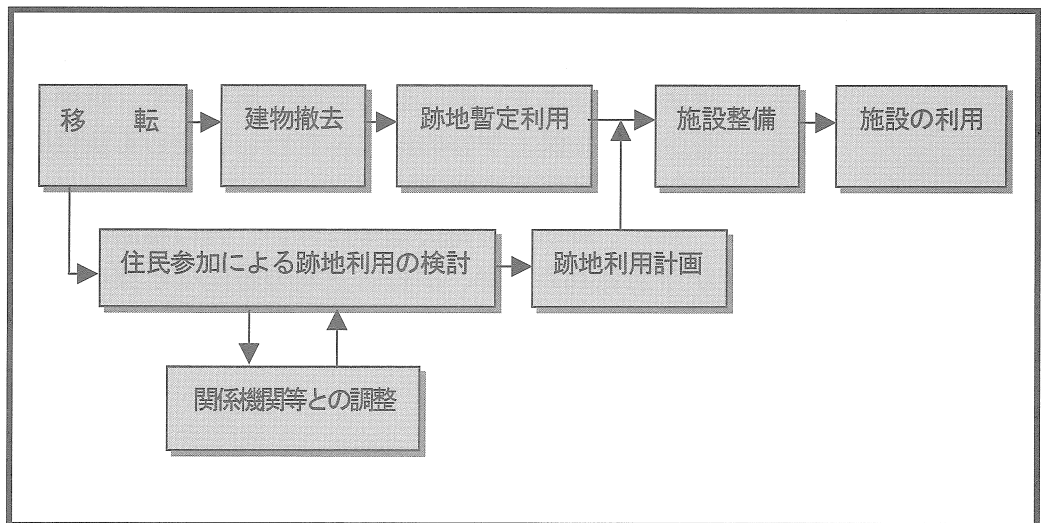
保土ヶ谷駅や中心市街地の周辺で、まとまった広さの公共用地が少ない現状にあって、利用プランを考えることは住民参加型のまちづくりを考える格好の素材です。跡地利用にあたっては、住民と行政が十分な話し合いを行い、パートナーシップ型のプランづくりを試みていきます。

3 まちづくりプロジェクト

〈保土ヶ谷小学校跡地位置図〉



〈プロジェクトの進め方〉



## (2) 保土ヶ谷駅前すっきりプロジェクト

保土ヶ谷駅は、この地区ばかりでなく区全体の「顔」です。美しく、機能的にも優れた駅前整備が必要です。現在は、駅の東側、西側とも交通動線、景観などがみだれています。

保土ヶ谷駅前が交通機能に優れ、景観的にも美しく、バリアフリーを追求した快適で安全な環境になるように改善・整備をめざします。

### ① 交通広場機能の整備

保土ヶ谷駅前は、この地区はもとより保土ヶ谷区全体の主要な玄関口に相当する重要な都市空間であり、地域の「顔」です。

西口側は、バスなどの交通広場機能が中心であるため、駅前の駐輪場などのため潤いや美観に欠けるほか、東口側も交通動線が複雑であり、駅前空間全体として歩行者や車の安全性にも問題があります。

環状1号線延伸を機に駅前広場の再整備計画の策定が必要であり、西口東口とも交通機能と広場空間を整理し、安心して安全・快適に利用できる駅前整備を図ります。

### ② バリアフリーの追及

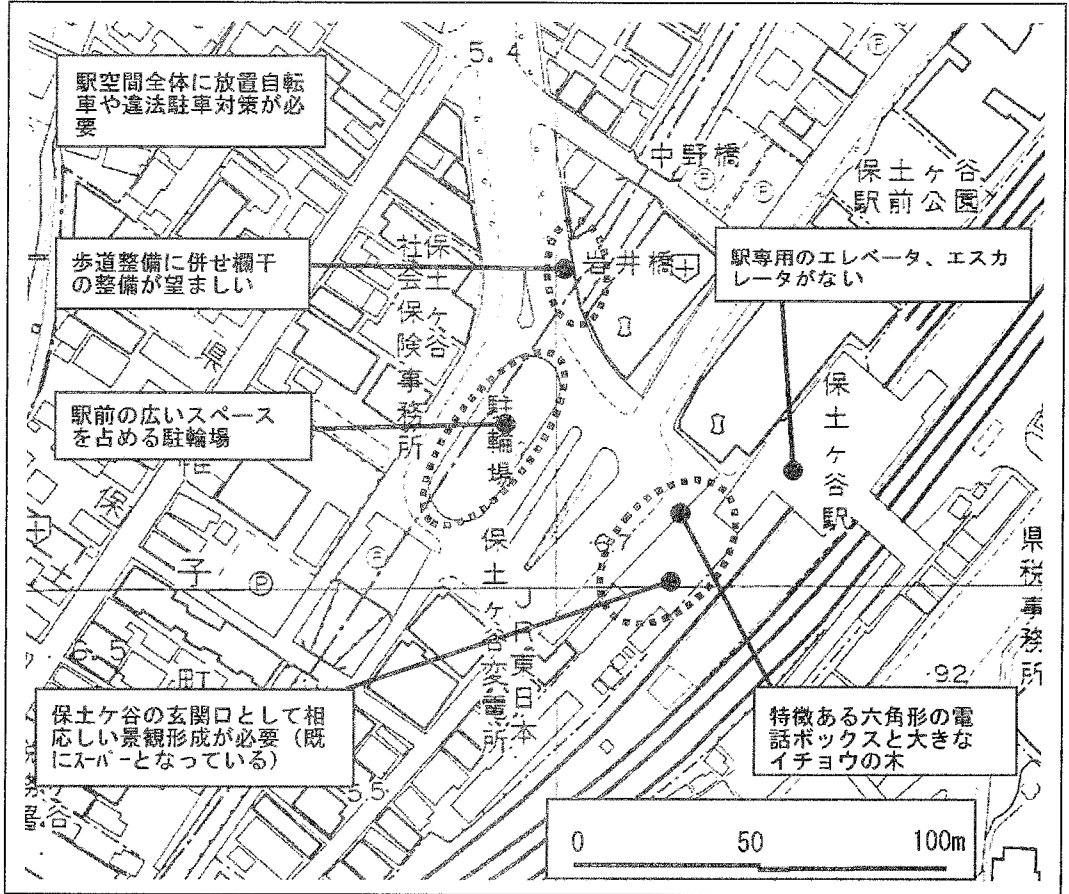
駅舎や駅周辺は多くの人が利用する空間です。段差や障害物の排除など、誰にとっても使いやすいバリアフリーに配慮した整備をめざします。

### ③ 美しく個性的な景観整備

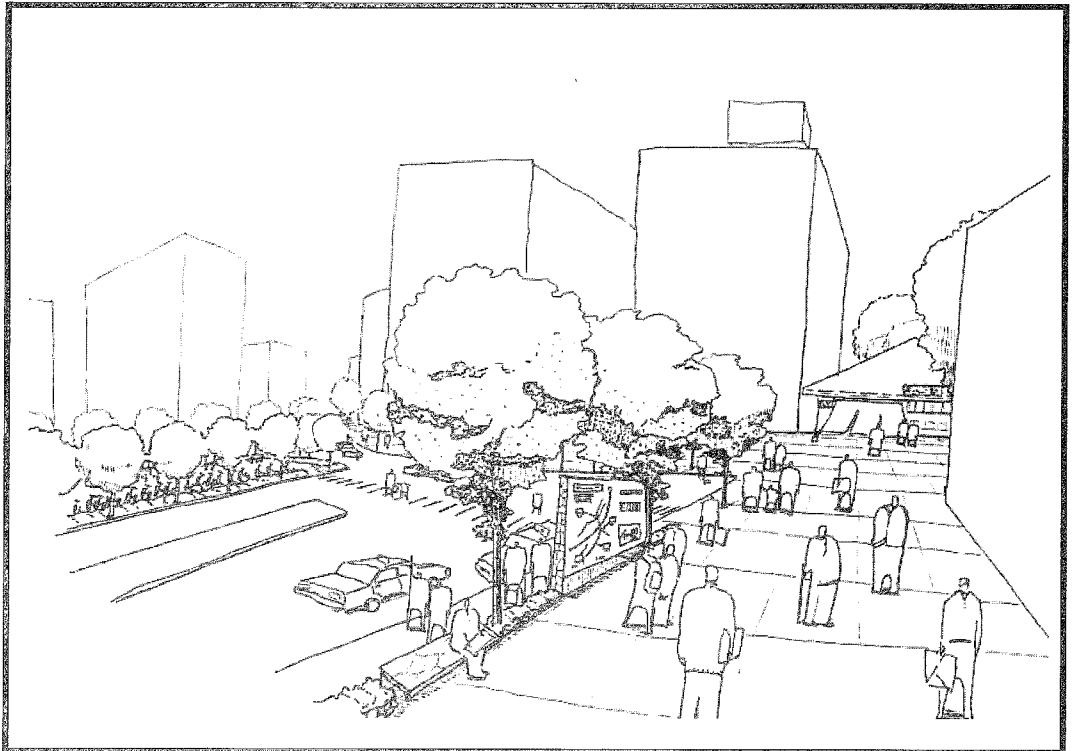
将来的には、環状1号線の延伸部分が、西口駅前広場を通り、国道1号保土ヶ谷橋付近まで延伸される計画があります。近くには今井川が流れており、東海道の宿場をしのばせる史跡もあります。延伸事業に合わせて、川や歴史を生かした保土ヶ谷の顔にふさわしい美しく個性的な駅周辺空間の景観整備方針づくりが望まれます。

また、環状1号線の延伸に伴い、西口商店街一帯の交通量が変化することが予想されますが、歩行者空間の確保など安心して買い物ができるまちづくりを進めていきます。

〈駅空間の現状（まち歩きの結果より）〉



〈駅空間改善のイメージ〉



## 3

## (3) やすらぎの住環境プロジェクト

## わがまちづくりプロジェクト

住民が地域に誇りと愛着を持って暮らすことのできる快適な住環境をめざします。

高齢者の負担を軽減するために、バリアフリーの導入、移動や買い物が容易にできる方策を検討します。また、美しい住環境づくりを進めるため生け垣の促進、花木・草花の植栽などを行ない、住民による花いっぱい運動を進めます。

## ① 緑と花いっぱいのまちづくりの促進

わが家も景観の一つとして、住民自身によるわがまちを美しくする運動を進め、生け垣助成のPR、花木、草花の植栽法の学習など緑と花いっぱいのまちづくりを進めます。また、肥料補給とゴミ減量化のために、生ゴミ堆肥化を推奨し、出来あがった堆肥の消費促進を進めます。

## ② 公共施設のバリアフリー

地区内の公共施設・市民利用施設は、段差が多く、点字ブロックも不十分で、高齢者、障害者に使いにくいものが見られます。地区内の段差をできるだけ少なくし、階段などに一休みできるベンチを設置するなど、バリアフリーの考え方に立った安全でやすらぎのあるまちづくりを進めます。

## ③ 高齢者が生活しやすい方策の検討

丘陵地の住民が保土ヶ谷駅、商店街、区役所などの公共施設を利用するには、便利な交通手段に乏しく、高齢化社会を迎えて坂の多い地域での生活への不安を述べる声が多くなっています。

地域の移動を容易にする方策や買い物の利便性を向上させる方策など、高齢者が生活しやすい環境整備について検討します。

## ④ 緑の保全・創出方法の検討

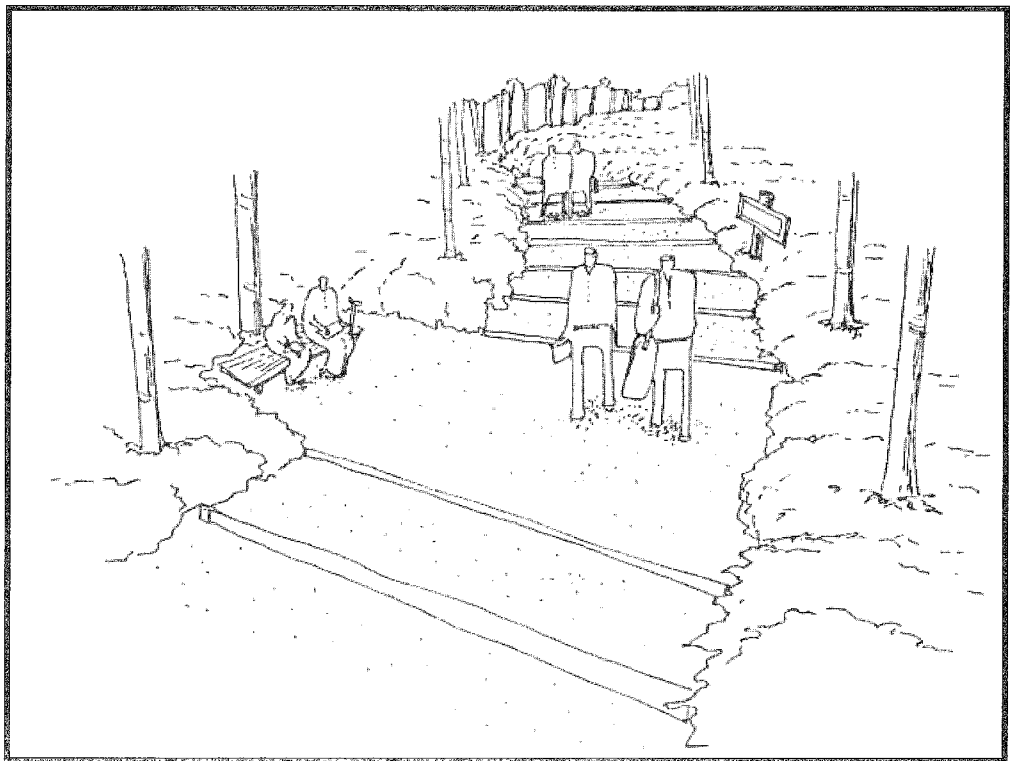
住宅化は斜面緑地にまで及び、保土ヶ谷の特色であった屋敷林や生け垣なども減少しつつあります。

宅地内の緑の保全充実をはかり、斜面緑地保全の方策を検討するなど、地区の緑の保全につとめ、さらに新たに創り出す方策についても検討を進めます。

〈花と緑のまちづくりのイメージ〉



〈階段や坂道にも、休むところがあれば…〉



## 3

## (4) 歩きたくなるまちプロジェクト

## まちづくりプロジェクト

自由時間が増え健康指向が高まってくるにつれて、誰もが安心して快適に歩けるまちづくりが求められています。

快適に歩ける空間整備を進めるとともに、川や緑地、歴史資産などをつないだコースの散策路を整備するなど「道」「川」「緑」「歴史」の連携を進め、歩きたくなるまちをめざしてきます。

## ① 今井川の親水性を向上する方策の検討

今井川の水質の向上、住民参加による擁壁への壁画作成、水鳥・水生生物地図の作成、休憩できる空間の設置など、川への関心や愛着を育み、川を生かしたまちをめざしていくような整備や活動が求められています。なお、保土ヶ谷橋から上流の左岸を中心に、河川管理用通路の整備を行い、快適な歩行者空間を創出するとともに、河川と一体化した修景整備を進めていきます。

## ② 散策コースの整備

地域の歴史的資産は貴重な文化資源であるとともに、緑のある憩いの空間としての役割も果たしています。このような地域の歴史資源と川・緑・見所をつないだ散策コースを設定します。歩道の整備や段差の解消などを行い、歩行者のための安全や快適に配慮した散策路の整備をめざします。また、快適に楽しく地域を歩くための散策路マップを作成します。

## ③ 案内サイン・標識の整備

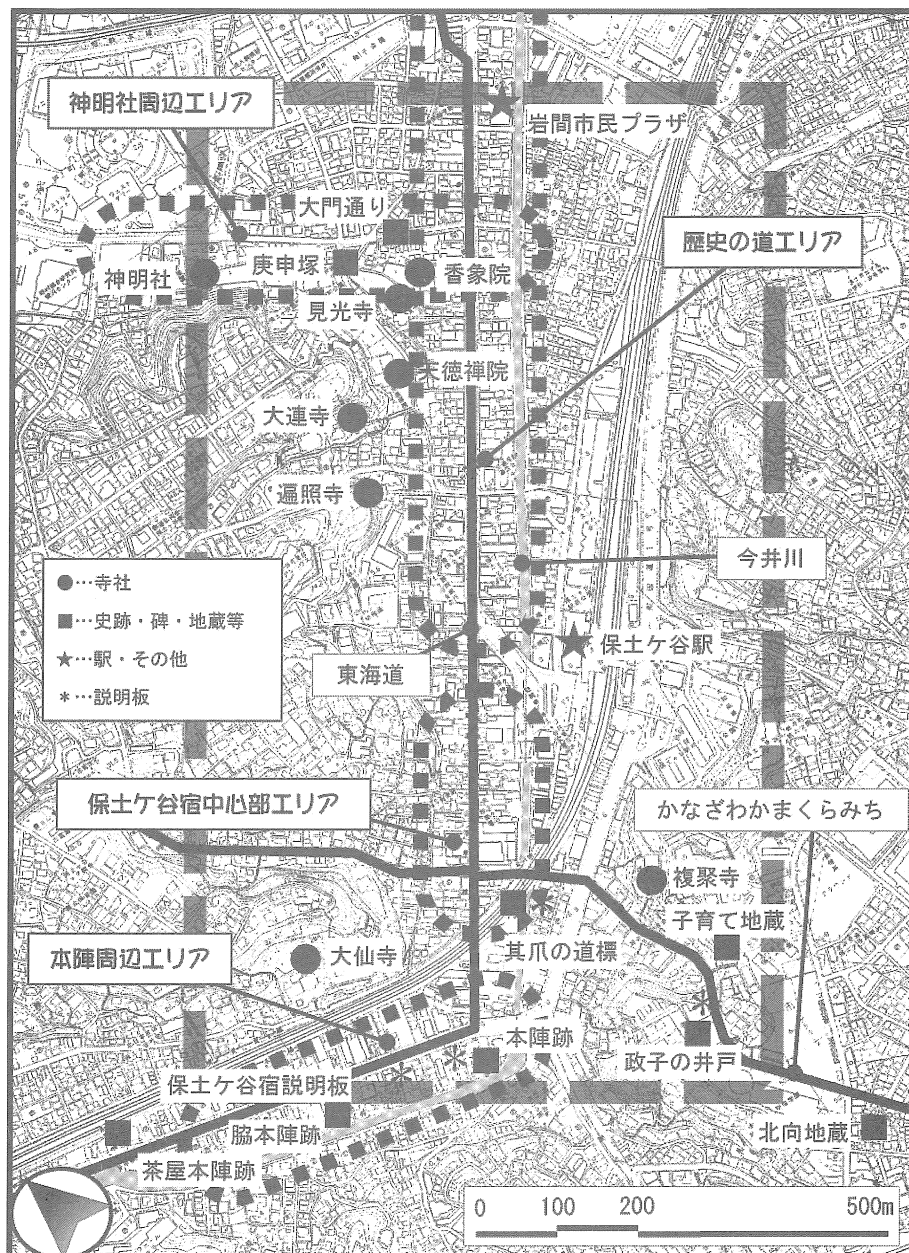
散策コースの案内標識の整備、歴史や見所を知らせる説明板や休憩できる空間の設置（ベンチなど）を進めるとともに、標識周辺への花の植栽などのおいのある整備を進めます。

## ④ 歴史的及び近代建築の保存方法の検討

旧東海道には江戸期の面影を残した和風建築があるほか、西側丘陵部には、大正・昭和初期の西洋館の影響を受けた近代建築として貴重な住宅が残っています。こうした建築物は建て替えなどで消滅する可能性が高く、保存方策の検討が望まれます。

3 まちづくりプロジェクト

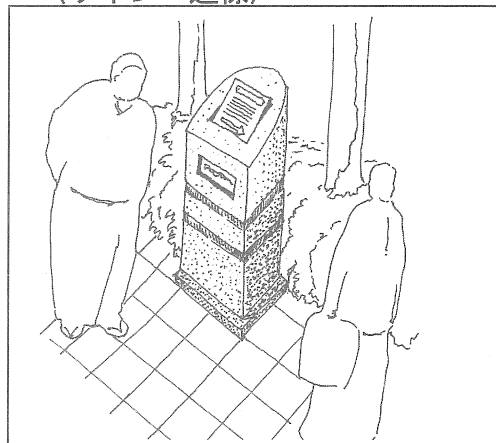
〈歴史の道と史跡のネットワーク〉



〈ゆっくりと歩ける散策路〉



〈サイン・道標〉





## 3

## (5) 保土ヶ谷宿プロジェクト

## まちづくりプロジェクト

地区内には東海道保土ヶ谷宿をしのばせる貴重な史跡があります。これは「保土ヶ谷らしさ」にもつながる大事な宝です。

これら保土ヶ谷宿にかかわる史跡を適切に保存するとともに、地域の歴史をまちの活性化につなげる活動を進めます。

## ① 史跡の保全と沿道案内板の整備

地区には、保土ヶ谷宿本陣、東海道から金沢・鎌倉方面へ分岐する地点に江戸末期の俳人其爪の句碑や道しるべなど、宿場をしのばせる貴重な史跡がありますが、あまり目立たず、老朽化しています。これらの貴重な史跡を適切に保存、整備するとともに、広く知らせる案内板の充実整備を図る必要があります。

## ② 情報発信の充実

宿場は保土ヶ谷らしさを主張する地域おこしの格好のテーマといえます。保土ヶ谷宿場まつりの開催や東海道五十三次シンポジウム\*への参加などの活動を広げ、保土ヶ谷宿からの情報発信を充実させ、地域の歴史をまちの活性化につなげる活動を進めます。

また、東海道を歩く人が増え、保土ヶ谷への来訪者も増えてきています。住んでよく、訪ねてよいまちをめざした地域づくりを進めます。

## ③ 宿場らしさの再現

地区内には宿場町の町並みそのものは残っていませんが、町割は残っています。この町割を生かして一部開始された案内板づくりやのれんによる宿場らしさの創出など、宿場のあるまちの特色を生かした活動を促進します。

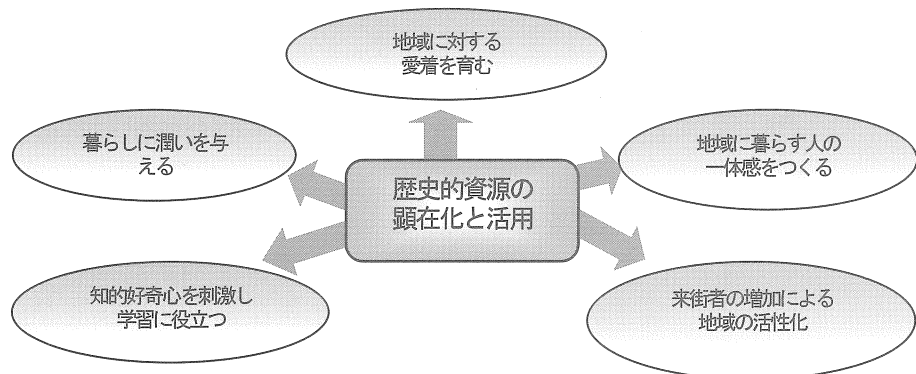
\* 東海道の各宿場間の交流を通じ、東海道の歴史や文化を学び互いの連携を深め、地域のまちづくりにつなげる目的で昭和63年に滋賀県土山町で開催されました。第8回(平成7年)は保土ヶ谷区で行なわれました。

〈保土ヶ谷宿整備の視点〉

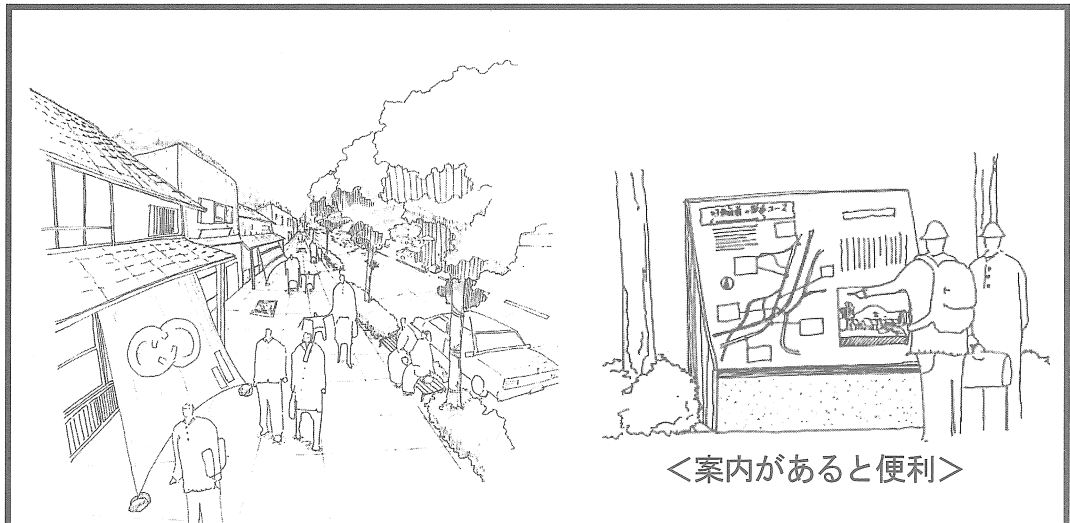
〈モニュメントの演出例〉



〈保土ヶ谷宿整備のコンセプト〉



〈保土ヶ谷宿を生かしたまちのイメージ〉



## 3

## (6) 幹線道路等整備プロジェクト

## まちづくりプロジェクト

地区を通る2つの幹線道路のうち、環状1号線は延伸、国道1号は拡幅の計画があります。

環状1号線は地区のシンボル道路としての沿道修景を望む声が高いと同時に延伸計画は困難が予想されます。国道1号は拡幅と平行して沿道の商店街の再整備が見込まれます。両道路とも整備にあたっては十分な検討を行う必要があります。

また、地区幹線道路や上岩間踏切の改善を検討します。

## ① 環状1号線の延伸・沿道修景の検討

環状1号線は、現代に東海道の姿を残す街路です。地元住民の利用ばかりでなく、東海道の町割を訪ねて来街者が多く歩く道でもあります。「現代の東海道」をめざして、住民の意欲により沿道の修景、商店街活性化運動の展開、街路樹や花を生かした道路づくりなどを行い、地区のシンボル道路としての位置づけをめざします。

また、延伸ルートは今井川との交差や住宅、商店の立地などがあり、整備には困難が予想されるため、十分な検討が必要とされます。

## ② 国道1号の拡幅

保土ヶ谷駅東側の国道1号は拡幅が計画されており、沿道の商店街では商店主の意欲に応じた商店街再整備計画の検討が必要とされます。

## ③ 地区幹線道路の整備

交通混雑の解消と歩行者の安全のために、バス路線や幹線道路をつなぐ地区幹線道路である市道川島岩間線などの整備が必要とされます。

## ④ 上岩間踏切の改善

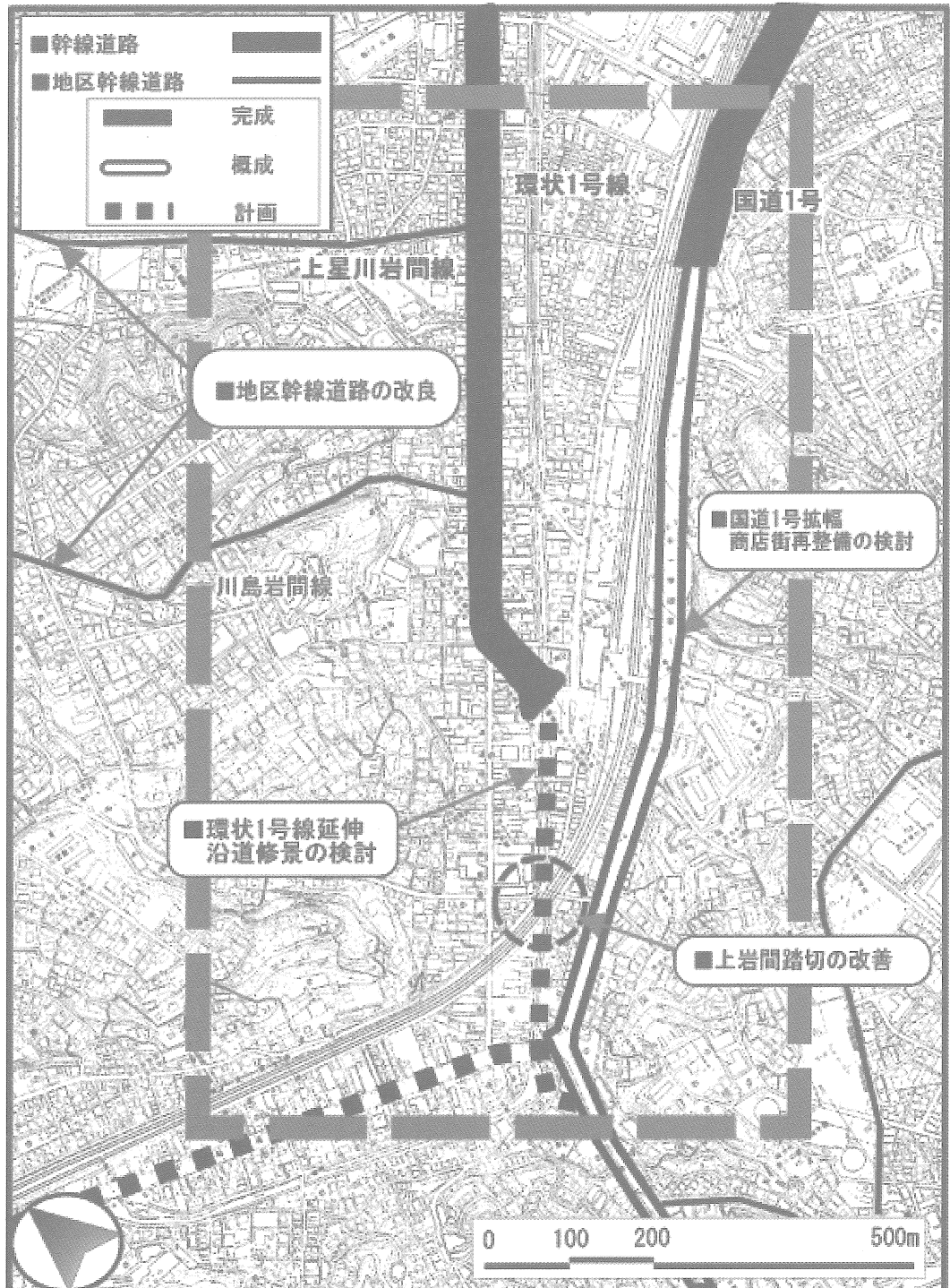
西口商店街は国道1号への抜け道として道路の混雑が激しいほか、上岩間踏切は道路の線形が悪く、交通渋滞が起こり周辺の見通しが悪いなどの危険が指摘されています。

歩行者の安全や快適性を確保するために、自動車の交通量・交通速度の規制、踏切の道路改良などを検討します。

3

まちづくりプロジェクト

〈幹線道路等整備プロジェクト〉



## (7) 花開け市民パワープロジェクト

この地区は、町内会・自治会活動をはじめ地域活動が盛んです。少子・高齢化社会を迎え、地域ケアや防災活動、地域による子どもの育成、スポーツ、文化活動の支援を進めるなど、市民の活動がまちづくりの中にいきいきと花開く地区を目指します。

### ① 住民活動拠点の整備

町内会・自治会活動、防災活動、商店街活動など、様々な地域活動を活発に行えるように、活動を支援する機能を有する拠点の整備が求められています。

### ② 地域福祉の充実

少子・高齢化社会が進み、子どもや高齢者が地域で安全に快適に生活できる地域福祉の仕組みづくりが求められています。地域福祉活動を行う市民を支援する環境づくりが望まれます。

### ③ 子どもたちの集いの場づくり

中高生は、まちの中での適切な集いの場が用意されていないために、駅周辺や商店などを溜まり場とし、地域住民から健全な育成を危ぶむ声が出ています。

中高生を中心とした子どもたちが、地域の中で安心して集うことができる場の整備を検討します。

また、地域と学校が連携することによって、子どもたちが地域での活動へ参加するような働きかけを行い、子どもと地域がふれあい、地域の自然や歴史、文化を学べる仕組みをつくります。

### ④ スポーツ・文化活動の支援

自由時間が増えるに従って、市民のスポーツ・文化活動への意欲が高まってきています。地域住民が取り組む自主的なスポーツ・文化活動を推進し、情報の収集・提供等を進めます。

3 まちづくりプロジェクト

〈多彩な活動が広がるまち〉



3 まちづくりプロジェクト

プロジェクトマップ

